

新宮市立医療センター改革プラン点検・評価について

平成 23 年度決算状況、平成 24 年度決算以降の見込みについて、下記のとおりご報告いたします。

1. 平成 23 年度決算について

患者数は、循環器科の積極的な患者の受け入れ等の影響により、入院患者数は、昨年度に比べ 2,263 人増加しましたが、外来患者数は、眼科の非常勤化等に伴い 4,346 人減少しました。収益額は、循環器科患者数の増加や、平成 23 年 7 月に地域医療支援病院の承認を得たことにより、患者 1 人あたりの単価も昨年度に比べ、入院では 1,331 円、外来では 1,244 円それぞれ増加しました。これらのことから、総収益は昨年度に比べ約 3 億 8 千万円増加しました。

また、費用面では、職員数の増加に伴い給与費が約 5 千万円増加したことや、患者数の増加に伴う薬品、診療材料等の材料費が昨年度に比べ約 2 億円増加したことにより、総費用は昨年度に比べ約 2 億 8 千万円増加しました。

この結果、経常損益は昨年度に比べ約 1 億円改善された 5 千 7 百万円の黒字であり、特別損益差引後の純損益は 4 千 6 百万円となり 6 年ぶりの黒字決算となりました。

平成 23 年度は改革プランで示した収支計画の最終年度であります。上記結果のとおり経常収支の黒字化を達成したため比率は 100%以上となり、黒字化等の目標を達成することができました。

2. 平成 24 年度決算及び今後の見込みについて

平成 24 年度決算見込みについて、収益面では、昨年度に引き続き循環器科等で患者数が増加しているため、収益面については昨年度に比べ増収となる見込みではありますが、費用についても医師数の増加による給与費の増や、患者数の増加に伴う薬品・診療材料等の材料費の増、更には修繕費や委託料の増加に伴う経費の増等により増加が見込まれており、収支状況は予断を許さない状況であります。

また、平成 23 年度で開院より 10 年が経ち、大型医療機器の更新時期を迎えることから、平成 24 年度には血管撮影装置や MR I を更新し、今後も大型医療機器等の更新が続く予定であるため、平成 25 年度以降は減価償却費が増加する見込みとなっております。

このような厳しい状況ではありますが、紀南地方の中核病院としての役割を果たすため、質の高い医療環境や健全な経営状況を保ち、地域の患者さまから頼られる病院づくりを目指していきます。

収 支 計 画 の 状 況

1. 収益的収支

(単位:百万円、%)

区分		年度		
		平成 23 年度	決 算 額	差 引
収 入	1. 医 業 収 益 a	6,001	6,091	90
	(1) 料 金 収 入	5,648	5,717	69
	(2) そ の 他	353	374	21
	うち他会計負担金	119	127	8
	2. 医 業 外 収 益	269	324	55
	(1) 他会計負担金・補助金	227	276	49
	(2) 国 (県) 補 助 金	3	3	0
	(3) そ の 他	39	45	6
	経 常 収 益 (A)	6,270	6,415	145
	支 出	1. 医 業 費 用 b	5,920	6,029
(1) 職 員 給 与 費 c		2,823	2,816	△ 7
(2) 材 料 費		1,487	1,547	60
(3) 経 費		1,177	1,232	55
(4) 減 価 償 却 費		414	408	△ 6
(5) そ の 他		19	26	7
2. 医 業 外 費 用		330	329	△ 1
(1) 支 払 利 息		157	157	0
(2) そ の 他		173	172	△ 1
経 常 費 用 (B)		6,250	6,358	108
経 常 損 益 (A)-(B) (C)		20	57	37
特 別 損 益	1. 特 別 利 益 (D)		8	8
	2. 特 別 損 失 (E)	3	19	16
	特 別 損 益 (D)-(E) (F)	△ 3	△ 11	△ 8
純 損 益 (C)+(F)		17	46	29
累 積 欠 損 金 (G)		△ 2,194	△ 2,259	△ 65
不 良 債 務	流 動 資 産 (ア)	2,170	2,560	390
	流 動 負 債 (イ)	340	350	10
	うち一時借入金			
	翌年度繰越財源(ウ)			
	当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (エ)			
	差引 不良債務 (オ) {(イ)-(エ)}-{(ア)-(ウ)}	△ 1,830	△ 2,210	△ 380
単 年 度 資 金 不 足 額 (※)		△ 90	△ 283	△ 193
経 常 収 支 比 率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$		100.3	100.9	0.6
不 良 債 務 比 率 $\frac{(オ)}{a} \times 100$				
医 業 収 支 比 率 $\frac{a}{b} \times 100$		101.4	101.0	△ 0.4
職 員 給 与 費 対 医 業 収 益 比 率 $\frac{(c)}{(a)} \times 100$		47.0	46.2	△ 0.8
地方財政法施行令第19条第1項 により算定した資金の不足額 (H)				
地方財政法上の資金不足の 割合 $\frac{(H)}{a} \times 100$				
地方公共団体の財政の健全化に関する法律上 の資金不足比率				
病 床 利 用 率		82.0	82.2	0.2

(※)N年度における単年度資金不足額については、次の算式により算出すること。

○「N年度 単年度資金不足額」=(「N年度の不良債務額」-「N-1年度の不良債務額」)

・不良債務額が負の数となる場合(不良債務が発生しない場合)においても負の数で上記単年度資金不足額を算出すること

例)「22年度単年度資金不足額▲30百万円」=(「22年度不良債務額▲20百万円」-「21年度不良債務額10百万円」)

2. 資本的収支

(単位:百万円、%)

区分	年度	平成 23 年度		
		プ ラ ン	決 算 額	差 引
収 入	1. 企 業 債	100	112	12
	2. 他 会 計 出 資 金	237	276	39
	3. 他 会 計 負 担 金			
	4. 他 会 計 借 入 金			
	5. 他 会 計 補 助 金			
	6. 国 (県) 補 助 金		2	2
	7. そ の 他		27	27
	収入計 (a)	337	417	80
	うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額 (b)			
	前年度許可債で当年度借入 金 (c)			
純計(a)-{(b)+(c)} (A)	337	417	80	
支 出	1. 建 設 改 良 費	105	119	14
	2. 企 業 債 償 還 金	542	528	△ 14
	3. 他 会 計 長 期 借 入 金 返 還 金			
	4. そ の 他	50		△ 50
	支出計 (B)	697	647	△ 50
差引不足額 (B)-(A) (C)		360	230	△ 130
補 て ん 財 源	1. 損 益 勘 定 留 保 資 金	360	146	△ 214
	2. 利 益 剰 余 金 処 分 額			
	3. 繰 越 工 事 資 金			
	4. そ の 他		84	84
	計 (D)	360	230	△ 130
補てん財源不足額 (C)-(D) (E)				
当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (F)				
実質財源不足額 (E)-(F)				

- 複数の病院を有する事業にあつては、合計表のほか、別途、病院ごとの計画を作成すること。
- 金額の単位は適宜変更することも可能。(例)千円単位。

3. 一般会計等からの繰入金の見通し

(単位:千円)

	平成 23 年度		
	プ ラ ン	見 込	差 引
収 益 的 収 支	()	(1,190)	(1,190)
	346,851	402,431	55,580
資 本 的 収 支	()	()	()
	236,770	275,631	38,861
合 計	()	(1,190)	(1,190)
	583,621	678,062	94,441

(注)

- ()内はうち基準外繰入金額を記入すること。
- 「基準外繰入金」とは、「地方公営企業繰入金について」(総務省自治財政局長通知)に基づき他会計から公営企業会計へ繰り入れられる繰入金以外の繰入金をいうものであること。